

滋賀県立大学

AI・ICT分野の 人材育成を通し 地域のDX推進に貢献する

実践的な学びを提供している。

e-PICTでは、必修の情報通信実習Aと選択必修科目の数理情報工学特論Ⅰ・Ⅱ等5科目、そして選択科目が開講されている。学生は、e-PICTを統括する杉山裕介准教授の指導の下、おのこの目標に応じて柔軟にカリキュラムを組むことができる。大学院生は自身の専門科目と数学系科目を深く学び、社会人は履修科目をすべて実習とする場合が多い。

実習では専属の指導教員と共に地域の持つ課題に向き合い、現場で使えるスキルを習得することを目指す。社会人コースでは自身が所属する組織の課題を実習テーマに選ぶことも可能だ。所属組織のDXに取り組み、商品開発や論文発表がなされた例もある。座学講義も充実している。看板講義である数理情報工学特論Ⅰ・Ⅱは、現象数学・AI・データサイエンスの基礎である数学を掘り下げて学

ぶ。現在流行している技術の背景にある数学を理解することで、今後急速に進展するICTへの応用力を身に付けられる。また、選択科目として同大学大学院の4研究科から9科目の情報系講義科目が提供されている。幅広く他専攻の科目を学び、分野横断的に活躍の場を切り拓く力を養成するカリキュラムとなっているのだ。

実習が地域課題の解決や地元企業のDXにもつながる仕組みで、一石二鳥にも三鳥にもなるe-PICTのプログラム。地域と密接に関わりながら、地域のICTの中核を担う人材を育てていく。

DXの本質はデジタル技術を活用した課題の解決にある。地域が抱える課題解決に向けて研究を進める、滋賀県立大学の地域ひと・モノ・未来情報研究センターは、研究と重なり合う形で教育活動も行っている。それが、大学院専攻ICT実践学座“e-PICT”(Practical Education Program for Information & Communication Technology: 以下 e-PICT)だ。大学院副専攻と社会人コースの2コースが設置されており、広く実



e-PICT社会人コース受講生の実習風景
彦根梨の色を色彩センサーで測定